

緊急被ばく医療に強い救急総合医養成拠点

(実施期間：平成 21～25 年度)

実施機関：福井大学（総括責任者：福田 優）

プロジェクトの概要

福井大学（医学部及び医学部附属病院）と緊急被ばく医療体制の更なる充実が必要な敦賀市（市立敦賀病院）の連携による新しい医師養成システムを形成し、救急診療、総合診療、緊急被ばく医療の3領域に精通した「緊急被ばく医療に強い救急総合医」を創出するため、緊急被ばく医療の専門医養成コース（3年間）と指導医養成コース（2年間）の2段階において、既存の救急診療教育カリキュラム、総合診療教育カリキュラムに、緊急被ばく医療カリキュラムを上乗せするスタイルで、多施設をローテーションして研修を行うプログラムを立ち上げる。

専門医養成コースの修了者（3年目終了時以降、毎年4名）は市立敦賀病院における救急総合診療及び敦賀市の緊急被ばく医療のリーダーとなることを目標とし、指導医養成コースの修了者（5年目終了時以降、毎年2名）は敦賀市のみならず福井県全体のリーダーとなり、他の道県の教育にも参画できることを目標とする。

(1) 評価結果

総合評価	進捗状況	人材養成手法の妥当性	実施体制・自治体等との連携	人材養成ユニットの有効性	継続性・発展性 の見通し
S	a	a	a	s	s

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

(2) 評価コメント

本プロジェクトは、既存の救急診療科目、総合診療教育科目に緊急被ばく医療カリキュラムを上乗せする形で研修を行うなど、原発立地地域で活躍できる実践的な救急総合医を育成するための特徴ある手法で実施されているものと高く評価できる。また、福島原発事故への受講生・指導医師の積極関与した実地研修からもその取組は評価できる。

- ・ **進捗状況**：4名の入学者が既に「救急医療」又は「総合診療」の豊富な経験者であることなどの効果もあり、専門医養成、指導医養成の両コースとも修了者数目標を達成できる見通しであることは評価できる。
- ・ **人材養成手法の妥当性**：講義に加え、シミュレーション実習を主体とした実践的な育成方式であるとともに、福島原発事故の経験を踏まえてプログラムの改善が行われていることは評価できる。今後は、医師に加えてコメディカル人材の養成も重要であるので、当該人材への展開も期待する。
- ・ **実施体制・自治体等との連携**：敦賀市はプログラムの管理・運営とともに市立敦賀病院での研修教育の支援を、また、原子力関連事業者はプログラムの立案・広報活動に関わるなど、

大学との連携は評価できる。今後とも、市立敦賀病院の医師確保に寄与することを期待する。

- **人材養成ユニットの有効性**：市立敦賀病院の救急部に養成中の2名が常勤医として勤務し、地域の救急総合医療に貢献しつつあること、及び福島原発事故の初動体制の確立や初期治療に関与・貢献したことなど高く評価できる。
- **継続性・発展性**の見通し：意識の高い指導医を確保できていること、他の原子力発電所のある地域の病院医師とのネットワークを構築していること、更には原子力発電業界関連組織からの財源を確保していることなどから、事業の継続性・発展性は高く評価できる。